

おぢや

市議会だより

NO. 63

24.1.25

編集発行
小千谷市議会
☎83-3505



OJIYA CITY ASSEMBLY



おぢや震災ミュージアム「そなえ館」

2004年10月23日に起きた新潟県中越大地震を後世に伝える中越メモリアル回廊の拠点の一つです。

地震発生から3時間後、3日後、3ヵ月後、3年後と復興までの月日をたどることで防災知識を再認識し、いざという時に「そなえる」意識を培うことを目的としています。

〒947-0026 新潟県小千谷市上ノ山4-4-2

小千谷市民学習センター「楽集館」2階

TEL 0258-89-7480 FAX 0258-89-7485

開館時間/9:00~17:00 休館日/毎週水曜日・年末年始

- 年頭のごあいさつ …………… P2
- 第4回定例会議決結果……………P2
- 常任委員会報告 …………… P3
- 一般質問 …………… P4~7
- 行政視察報告 …………… P7~9
- 議会日誌 …………… P9
- 雪あかり、編集後記 …… P10

—主な掲載内容—

「新しい酒は、新しい皮袋に」



議長 久保田久栄

新年あけましておめでとう
ございます。市民の皆様にお
かれましては、健やかなお正
月を迎えられたことと、お慶
び申し上げます。

小千谷市議会は、昨年四月
の一般選挙で定数を十六人に
減らし、四人の新しい議員を
迎えて新たな船出をいたしました。「新しい酒は、新しい皮
袋に」との言葉がありますが、
議会も常に周りの声を聞き、
改善・改革をすすめて参りた
いと考えております。今後と
も市民の皆様のご指導、ご鞭
撻を心からお願い申し上げます。

市職員の派遣やボランティア
の参加、義援金の募集など迅
速な支援を行いました。農家
民泊などや企業の寮を利用し
ての被災者の受入れ支援は、
テレビで全国放送され大きな
反響があり、当市議会へも被
災地の議会はもとより、全国
の議会から視察が相次ぎまし
た。どうか被災地の皆様の一
日も早い復興をお祈りしてお
ります。

また、昨年十月には、中越
大震災の記憶と記録、そして
教訓を後世に残すため、生涯
学習センター楽集館に併設し
て「そなえ館」が開設されま
した。小千谷市、長岡市と長
岡市川口地区、山古志地区の
施設と繋がって中越大震災の
状況を表すものです。多くの
皆様からご覧いただき、お役
に立ってくださることを心から
願っております。

最後に、経済情勢において
も難問が山積しておりますが、
市民の皆様にとって、本年が
希望に満ちた年となりますよ
う、ご多幸とご健勝を祈念申
し上げ、年頭のご挨拶といた
します。

平成二十三年小千谷市議会
第四回定例会
議決結果

十二月五日から二十二日まで
開催し、次のとおり議決いたし
ました。

条例の制定・改正

○小千谷市立学校設置条例の一
部を改正する条例
(全会一致)

○小千谷市ガス供給条例の一部
を改正する条例(起立多数)

○小千谷市農業者等就労施設条
例の一部を改正する条例
(全会一致)

○小千谷市都市公園条例の一部
を改正する条例(全会一致)

平成二十三年度予算の補正

○小千谷市一般会計補正予算
(第六号) (全会一致)

○小千谷市国民健康保険特別会
計補正予算(第二号)
(全会一致)

○小千谷市介護保険特別会計補
正予算(第二号)
(全会一致)

(全会一致)

○小千谷市後期高齢者医療特別
会計補正予算(第一号)
(全会一致)

○小千谷市ガス事業会計補正予
算(第一号) (全会一致)

○小千谷市水道事業会計補正予
算(第一号) (全会一致)

○小千谷市工業用水道事業会計
補正予算(第一号)
(全会一致)

○小千谷市下水道事業会計補正
予算(第一号) (全会一致)

その他

○専決処分(平成二十三年度小
千谷市一般会計補正予算(第
五号) (全会一致)

○財産の取得(防災公園用地)
(全会一致)

○字の変更について
(全会一致)

請願

○「郵政改革法案」の早期成立
に関する請願 (採択)

発議

○原子力推進政策の見直しと発
電所の安全対策強化等を求め
る意見書 (起立少数)

○「郵政改革法案」の速やかな
成立を求める意見書
(起立多数)

○原子力発電所の安全対策強化
と自然エネルギー、代替エネ
ルギーの開発と普及を求める
意見書
(起立多数)

議会中継

市議会本会議は市ホームページからインターネット生中継
でご覧いただけます。

本会議当日の生中継のほか、録画中継もご覧いただけます。
(録画中継は本会議開催日のおよそ5日後から、翌定例会の
初日の前日まで)

URL <http://www.city.ojiya.niigata.jp>

常任委員会報告

総務文教委員会

額をそれぞれ百八十八億七百五十四万七千円としたいというものであります。

○議案第八十五号 平成二十三年度小千谷市ガス事業会計補正予算(第一号)について

本委員会に付託されました議案八件、発議案一件、請願一件について、慎重に審査を行い議案八件は原案のとおり可決、発議案は否決、請願は採択すべきものと決しました。

○議案第七十七号 小千谷市立学校設置条例の一部を改正する条例の制定について

本案は、平成二十五年四月に南部地区四小学校を統合し南小学校を設置したいというものであります。

○議案八十号 小千谷市ガス供給条例の一部を改正する条例の制定について

本案は、ガス料金の原料費調整に係る輸入液化天然ガスの価格高騰によりガス料金を改定したいというものであります。

○議案第八十一号 平成二十三年度小千谷市一般会計補正予算(第六号)について

今回の補正は、歳入歳出それぞれ一億一千三百三十二万九千円を追加し、歳入歳出予算の総

額をそれぞれ百八十八億七百五十四万七千円としたいというものであります。

○議案第八十五号 平成二十三年度小千谷市ガス事業会計補正予算(第一号)について

本委員会は、人事異動等に伴う職員人件費の補正、公営企業運営委員会報酬及びガス料金改定に伴う電算システム関係委託料の補正であります。

○議案第八十六号 平成二十三年度小千谷市水道事業会計補正予算(第一号)について

○議案第八十七号 平成二十三年度小千谷市下水道事業会計補正予算(第一号)について

三議案とも、職員人件費及び公営企業運営委員会報酬の補正であります。

○議案第八十九号 財産の所得について

本案は、小千谷市大字蕨生地内に防災公園用地を取得したいというものであります。

○発議案第七号 原子力推進政策の見直しと発電所の安全対策強化等を求める意見書について

本案は、原子力推進政策の見

直しと発電所の安全対策強化等を求めることを内容とした意見書を、国に提出したいというものであります。起立採決の結果起立少数で否決すべきものと決しました。

○請願第八号「郵政改革法案」の早期成立に関する請願について

本請願は、郵政改革法案を速やかに成立するように国に意見書を提出していただきたいというものであります。

民生産業委員会

本委員会に付託されました議案五件について、慎重に審査した結果、原案のとおり可決すべきものと決しました。

○議案第七十八号 小千谷市農業者等就労施設条例の一部を改正する条例の制定について

本案は、東山地域農業者等共同作業施設に隣接する市有地の売り払いに伴い、土地を合筆したことにより位置の変更を行うというものであります。

○議案第七十九号 小千谷市都市公園条例の一部を改正する条例の制定について

本案は、信濃川河川公園の再整備に伴い、使用料の設定等を行い、また、都市公園法から引用している関係条文を改めるというものであります。

○議案第八十二号 平成二十三年度小千谷市国民健康保険特別会計補正予算(第二号)について

本案は、保険給付費の増額と人事異動等に伴う職員人件費の補正であります。

○議案第八十三号 平成二十三年度小千谷市介護保険特別会計補正予算(第二号)について

本案は、次年度の制度改正に伴うシステム改修委託料の計上のほか、人事異動等に伴う職員人件費の補正であります。

○議案第八十四号 平成二十三年度小千谷市後期高齢者医療特別会計補正予算(第一号)について

本案は、人事異動等に伴う職員人件費の補正であります。

市議会議員

安達 稔 氏が逝去

安達稔市議会議員(片貝町八島)が一月三日(火)逝去されました。六十六歳でした。



安達氏は昭和六十二年に市議会に初当選、以来七期連続当選され、社会土木委員長、広域行政調査特別委員会委員長、監査委員、農業委員として、市政の発展に貢献されました。ここに謹んで哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈りいたします。

市政の内容を聞く

一般質問

実施したい。



放射線量を測定する市職員

質問 今こそ、自然エネルギー導入による地域活性化を！

答弁 ペレットボイラーは公共施設での新設時の導入を検討したい。太陽光発電は実証データ収集事業を進めており、有効性を確認し助成の判断にしたい。

質問 子宮頸がん予防ワクチン接種の助成を国の助成対象である現在高校二年生を当市では対象としなかったが、対象とすべきではないか。

答弁 高校二年生に相当する者は国が例外的に認めている対象範囲であり、前倒しで実施していた市町村は問題なく対象と出来たが、当市では自費で接種した方等の間で公平性を欠くとの見解で助成対象としなかった。**再質問** 当市の接種率は三千パーセント台のはず。予算は余っているのではないか。国の対象と

なっていた高校二年生が当市では除外された。それこそ不公平。市独自でも高校二年生に助成すべきではないか。

答弁 財政状況や周知を含めた効果的実施の検討を行った結果であり今後も市単独での助成は行わない。

自主防災組織について

柳田 宏光 議員

質問 ①自主防災組織の指導者の育成を、いっどの様な形で実施するのか。
②自主防災組織員の活動範囲をどう考えているか。
③消防団の責務との区別はどのように考えているか。
④七月豪雨における、東小千谷での死亡事故に対しての保険はどの様に考えているか。
⑤自主防災組織員の制服は考えているか。

答弁 ①中越防災安全推進機構が実施している「中越防災大学」の受講をしていただき、その受講費の一部を市が助成する。今後「そなえ館」と連携し、防災研修を受けられるようにしたい。

②活動範囲は、現在検討しているが、平常時は情報収集・伝達体制の整備、防災用資機材等の整備、危険箇所の点検等。
③小千谷市地域防災計画に記載されている活動内容をもとに、消防本部、消防団長及び自主防災組織連絡協議会長と協議を進めており年度内にはまとめたい。

④自主防災組織の訓練中のケガや事故については「防火防災訓練災害補償等共済制度」で補償されるが、活動中の事故に対する補償はないので現在検討中である。現在は、「災害弔慰金の支給等に関する法律」に基づき弔慰金をご遺族に支払っている。
⑤制服の整備は考えていないが、役員等を表示する腕章等の整備は検討していく。

来年度予算編成関連・病院の統合問題・都市計画道路の変更について

山本 道男 議員

質問 ①来年度予算編成に当たり谷井市政の特徴的政策は何か。
②組織改革に基づく企画政策課の今年度の成果と来年度の政策等について。

③市道の維持管理予算については当初予算から大幅増額し、市民要望に因應するべきではないか。
④市民健康診査項目に「心電図検査、眼底検査、PSA検査」を追加し、補助金を来年度予算に計上すべきではないか。

答弁 ①総合計画等に基づき、市民ニーズ及び緊急性の高い施策から事業実施したい。
②重点施策の推進及び懸案事項の調整機能の強化を図るため見直しを実施したもので、来年度は「まちづくり推進室」を中心に山本山全体構想等に鋭意取り組んで参りたい。
③市道の維持管理予算については、できるだけ多くの要望に応えたいが、町内要望やパトロールにより十分精査したうえで所要額を計上したい。

市民の健康と安全に係る諸課題について

長谷川有理 議員

質問 当市における放射能対策について

答弁 側溝や雨水が集まる場所は放射線濃度が高まる傾向があること等を市報等で周知したい。県の原子力防災対策見直し案へは近隣市と考え方を調整し意見を出していく。東電とは、通報連絡協定を含む安全協定締結を目指す。低線量がれきは当市では、受け入れない。学校給食用食材の放射能検査は県の検査機器を利用し三月上旬より検査を



克雪施策と公共工事 について

田中 淳 議員

④心電図検査については実施の方向で検討したい。他の検査については医療機関との調整を踏まえて検討したい。

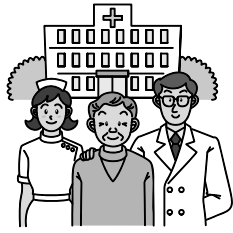
質問 病院の統合問題について

①3か月間で進展が見られたか。

②市報等で、今までの経緯や市長の考え方を周知してはどうか。

答弁 ①事務局の話し合いや両理事長との懇談を行っており、話し合いは継続している。

②民間同士の問題であり、広報による周知は適当でないと考えており、考え方等は会議等で話しているので理解いただきたい。



質問 都市計画道路は、私権の制限を伴うことから再検討すべき時期ではないかと考える。特に、城内桜町線の未施工部分は事業化が難しいことから幅員変更すべきと考えるが。

答弁 城内桜町線を含め、事業化が難しくなった計画路線については、再検討したい。

問題などを総合的に見極めたいと考えている。

現段階では、雪おろしの軽減を目的とした克雪住宅助成と節電をはかる目的での太陽光発電助成については、区分して検討したいと考えている。

除雪路線の廃止や距離の削減については、市民の日常生活や社会活動の確保という道路除雪の目的から、人口減少のみを理由とした除雪路線の廃止は考えていない。関係町内と十分協議を行い、納得のうえで行ってきたい。

このことが、除雪オペレーター

の減少につながるかの判断は難しいが、今後とも公共事業の確保に意を用い、雇用の維持に努めたい。

昭和五十九年度から克雪住宅について累計で約二千戸の住宅に融資・補助を行ってきた。今後も継続して克雪住宅の普及に努めたい。

雪国における太陽光発電の有効性については現在、市内各家庭に設置した太陽光発電設備について実証データ収集事業を行っている。この事業で得られたデータをもとに、冬期の日照不足による発電効率性の課題や降雪による装置の破損、屋根雪処理の

問題などを総合的に見極めたいと考えている。



介護保険と茶郷川等の洪水対策について

風間 健一 議員

質問 介護保険について

来年度は第五期介護保険事業

計画がはじまり介護保険が見直される年です。家族の介護を理由とする「介護退職」、後を絶たない「介護心中」「介護殺人」も起きています。

①当市の特養ホームの整備状況は入所待機者に比べて不足している。待機者に見合った特養ホームの整備・増設をお願いしたい。

②当市の平均介護保険料は、来年からは月五千円台、年六万五千円程になるのでは。高齢者には耐えがたい金額である。国に負担を求め、当市も一般会計から繰り入れて保険料を引き下げたい。

③県内七割の市町村は生活困窮者に、独自の介護保険料や利用料の減免をしています。当市も独自の保険料と利用料の減免制度を設けていただきたい。

答弁 ①第五期介護保険計画で特養ホームの整備を検討する。②市長会を通じて国に負担を要望する。一般会計からの法定外繰り入れはしない。③減免策は行わない。

質問 茶郷川、表沢川、湯殿川の洪水対策について

①小千谷市の三河川の洪水対策についての考えは。

②遊水地や樋門に多数の排水ポンプを設置することも、氾濫防止に有効だ。住民が水を被ることのないよう、市もあらゆる手段を講じていただきたい。

③護岸が経年劣化して洪水時に崩壊する心配も。部分的な改修を県に要請していただきたい。

答弁 ①「田んぼダム」を施工している。事ある度に県に河川改修の要望をしている。

②洪水対策の一環として「田んぼダム」を施工している。また遊水地や、樋門に排水ポンプを設置することも有効と考え、県に粘り強く要望する。

③県の判断で修繕工事等が施工される。河川全体に配慮した洪水対策が必要であり、その機運を盛り上げるべく、関係諸団体と一体で要望活動を展開したい。



豪雨により冠水した千谷地内

空き家対策について

安達 稔 議員

質問 ①空き家問題に対する市の認識について。

②市内の空き家件数と空き家率
③まちづくり推進室の成果は。
④老朽化して危険な空き家の現状は。

⑤将来の入居が不確定の空き家への対策は。

⑥条例化を検討する考えは。

答弁 ①あくまで所有者の財産であり、空き家ということだけで問題にすることはできない。管理不全で不安・迷惑を受けた場合は町内会や警察と連携して対応する。

②統計調査では賃貸等を除いておよそ五百三十戸(四%)となっている。

③平成十九年三月から市のホームページで空き家情報を発信し、十三件の情報提供を行い四件の売買と二件の賃貸につながっている。

④五百三十戸のうち建物の主要部分に不具合のある住宅は百八十戸程度と推計している。今後調査等を検討したい。

⑤防犯上の支障がある場合は町内防犯組織や警察等と連携していく必要がある。

⑥空き家は個人財産であり、行政がどこまで介入できるか難しい問題を含んでいる。条例化については現在考えていない。

子育て支援・特別支援教育について

久保田陽一 議員

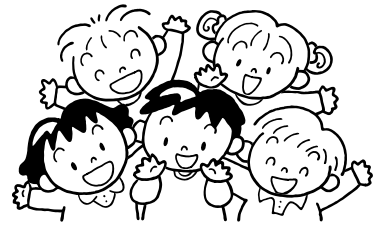
質問 学童保育・ファミリーサポート事業について

①ファミリーサポート事業の利用人数の推移と利用料金値下げの考えの有無について。

②学童保育の対象児童、原則小学三年生以下を六年生まで対象拡大の有無について。

答弁 ①平成十七年三月末の提供・依頼会員合計は百四十一人。

平成二十二年度が三百七十五人と順調に増加。活動件数も平成二十年度八百五十四人、平成二十二年度が千四十五件と増加しており引き続き周知していきたい。依頼会員が支払う一時間当たりの利用料金五百円は県内十七市中二番目に安く、提供会員が受け取る報酬も新潟市などに



次いで高額な七百円である。よって利用料金は適正と考え、今のところ引き下げの考えはない。

②児童福祉法でおおむね十歳未満の児童と定めていることから、当市も原則として同様な取扱いとしている。しかし、これまでも年齢だけでお断りした例はなく、今後も柔軟に受け入れを行っていく予定。

質問 特別支援教育について

①特別な支援が必要な児童生徒数の推移と当市の現状について。
②当市独自の取組みや指導者育成のカリキュラム等の有無と今後の取組について。

教育長答弁 ①全国の支援学級在籍児童生徒数は平成十三年から二十二年のおよそ十年で二倍に増加。当市は平成十八年から二十三年の五年間で一・七倍の増。

②市独自のカリキュラム等はないが、大学教授を招いての研修会の実施や、県主催の研修会への積極的な参加で、教職員の指導力向上に取り組んでいきたい。

小千谷市内の病院の診療体制について

吉崎 進 議員

質問 過去三回勤務医不足について一般質問を行った。その後、小千谷市内の病院の勤務医不足は解消されず、診療体制はさらに悪くなり、長岡市内の病院を頼らざるを得ない状態になっている。

公共性の大きい病院の勤務医を市として確保に動いてはどの質問に、市長は、民間の病院だから要請依頼があればと答弁していた。病院からの要請はなかったのか。また、補助金を出し、東京医療センターから研修医を受け入れているが、研修終了後、小千谷に赴任した医師がいるとは聞いていない。

市長はこの状態をどのように考え、どのような対策を取るつもりか。

答弁 市内病院及び小千谷市魚

沼市医師会で医師確保について、大変な努力をしている。しかし、残念ながら医師不足解消までには至っていない。医師確保に關した病院からの要請は、現在のところ受けていない。大学への派遣要請については、勤務条件や環境、医療技術に関する知識などに精通していなければならぬため、市独自の要請活動は難しい。病院が要請活動するに際し、市に要請があれば、快く応じるつもりでいる。また、研修医に会う機会があるときは、当市の病院に勤務してくれるようお願している。

勤務医不足は、小千谷市民に医療環境に対する不安を与えることとなり、大変憂慮すべきことと考える。したがって根本的な対策としては、現在協議が進められている病院統合を成功させることが一番の対策であると考え、鋭意努力しているところなので理解をいただきたい。



茶郷川改修事業の取り組みとゴミ処理有料化の成果等について

山賀 一雄 議員

質問 茶郷川改修事業推進の取り組みについて

①河川整備計画になぜ登録されないのか、その理由について。
②地元関係者との整備方策等の協議の有無について。

③茶郷川改修促進期成同盟会解散の経緯について。

④茶郷川環境整備協議会の活動等について。

⑤堤防用地の買収と事業中断の実態について。

⑥河川整備の遅れが及ぼすまちづくり推進への影響について。

答弁 ①河川整備計画案を地元にて提案したが、合意に至らなかった。新たな計画案を平成二十年に提案したが、築堤の用地、流末処理に問題があり、同意を得ることは困難と県は判断した。
②度重なる地元との協議の不調に県は慎重になっているのが実態である。

③改修事業の必要性を議論する機会を作ったことや環境美化の定着等が挙げられるが、徐々に

活動実態が希薄になり休止状態になっている。

④沿川両岸の堤防除草、ゴミ拾いや桜樹木、フラワーボックスの手入れ等を行っている。

⑤河川局部改良事業として買収したが、一部の了解を得られず計画を断念したとのこと。

⑥土地利用の制限が一部あり、まちづくり推進への影響は少なからず出ているので、地元と行政側との合意形成が図られるよう努力する。

質問 ゴミ処理有料化の成果等について

①有料化目的達成の度合いについて。

②不法投棄の現状について。

③ゴミ袋の改善等について。

④緑化運動の推進と枝下ろし等のゴミ処理について。

答弁 ①有料化の四つの目的は、意識の向上や数値的にも成果は徐々に進んでいると思う。
②家電リサイクル法対象の品目は減少、法以外は横ばいとなっているが、監視パトロール員を二名採用し、強化に努めている。
③単なるゴミ袋の販売ではないが、今後、市民の意見を聞いたうえで必要に応じ改善したい。

④四月からは以前と同じように束ねて出す方式を検討している。

交通行政について

阿部 正行 議員

質問 交通行政を中心に安全な市民生活に向け四点伺いたい。

①国道一一七号バイパスの完工について。

②道路橋りょうの補修について。

③市道本町山本線、通学路の確保について。

④自転車に関する事故について。

答弁 ①国道一一七号バイパスの完工については県長岡地域振興局によって進められ、平成二十八年年度頃の完成予定で、事業費十二億円を見込んでいます。

②道路橋りょう補修については現在百六十三橋あり、修繕の必要度合いのあるものから行ない、本年度は十橋、来年度も十橋の予定。なお、抜本的な架け替えはないものと思われる。

③市道本町山本線の通学路の確保



については、今後、船岡一丁目から山本交差点までコーンポストポールを設置し、センターライン等の引き直しにより片側歩道を確保するとともに、船岡一丁目については、路肩部分に消雪パイプの設置や壁に着雪しない塗料の塗布、必要に応じて機械除雪を実施する。通称宇宙坂と市道稲荷町線については、道幅が狭く機械除雪が無理な事故から、地元町内と協力し安全確保に努めたい。

④自転車事故については、幸いにも当市では大事故は起きていないが、近年関心が高まっている。自転車保険については市民に啓発して行きたい。また、小中学校等交通安全指導員と協力し、運転講習会の実施や法令遵守も周知して行きたい。

行政視察報告

総務文教委員会

平成二十三年十月十八日

二十日

「市民協働による

まちづくり」

宮崎県西都市

西都市は、宮崎県のほぼ中央部に位置する人口三万二千人余りの市である。歴史は古く、四百を超える古代古墳群が美しく整備され、「日本の歴史公園百選」に選ばれている。

西都市がこの活動を始めた目的は、「市民の創意工夫や意欲が十分生かせるまちづくり」である。平成十九年に「西都市市民活動推進条例」を策定し、その目的を達成するため「協働推進委員会」を組織、「市民提案型まちづくり事業補助金制度」を創設し、活動している組織に経費

の一部を補助している。また、地域活性化の取り組みの模範となる団体に「西都市協働まちづくり奨励賞」を授与し表彰している。

庁舎別館に「支援センター」を開設し、職員数名を配置している。「地域のごは地域である。」を基本として、行政はその後方支援、活動団体同士の相互理解やつなぎ役を担当することであった。



「小中一貫教育」

120520

宮崎県日向市

今回視察の平岩小中学校は宮崎県日向市の中心部南側に位置し、海岸に面している。児童生

徒数は二百四十七人、教職員は三十二人である。

この学校は「宮崎の教育創造プラン」を基に、前期（小学一年生～四年生）、中期（小学五年生～中学一年生）、後期（中学二年・三年）とし、九年間を見通した緩やかな流れの中で目標を立て、子供たちの個性を十分把握してきめ細かな指導を行い、縦のつながりによる異年齢集団に基づく仲間づくりを行なった結果、中一ギャップによる不登校が激減した。

しかし、中一ギャップの代わりに高一ギャップが生じたり、六年生の主体性が育たないという問題も見受けられ、現在保護者も含めて今後の一貫教育について検討が進められている。



こういう小中一貫校の取り組みは全国の過半数の市町村で取り組まれている。小千谷市でも平成二十五年に南小中学校が南小中学校に併設される。この時期に平岩小中学校を訪れたことは大変有意義であった。小千谷市にとって何が適切か、子供たちを一番に考えた策が必要ではなかるうか。

民生産業委員会

平成二十三年十月四日～六日

「食育のまちづくり」

120520

高知県南国市

南国市は、平成十七年全国に先駆け「食育のまちづくり宣言」を行い、全市を挙げて食育に取り組んできている。

特徴としては、推進会議を設置し、市民参加のワーキンググループにより「食育フェア・地産地消フェア・各種料理教室・家庭用リーフレットの配布」等の事業実施に加え、「食習慣の改善」等を盛り込んだ「食育推進五か年計画」を立案している。

今年度が計画の最終年で、成果の集約が行われることになつ

ている。

「食育」のように継続性を必要とする事業は、市民の参加に加え、常に時代に合った新企画を立案する等、息の長い飽きのこない事業推進が必要である。

「食習慣の改善」については小千谷市が、以前「減塩運動」で相当な成果を上げておることから、一項目ごとに集中的に改善を図る方式も肝要ではないかと考える。



高齢者福祉産業

「彩」

120520

徳島県上勝町

上勝町は、小さい町ながら、老人による「葉っぱ」産業で全

国的に注目を集め、年間四千人もの視察や取材が殺到している活力あふれるまちである。

この事業は、発案者の一農協職員の懸命な努力と農家のお年寄りの協力で成し得た画期的な事業で、料理の「つま」として利用される材料（ほとんどが葉っぱであるが、稲穂や梅等の花類も扱っている）を「彩」と称して商品化したものである。

現在では、お年寄りや女性の多くが参加し、全国の市場に販路を拡大しながら、多額の利益を得ている事業である。

因みに、一軒当たりの年収は百万円から一千万円が多い人は二千万円程度稼ぐ老人もいる。今後の課題としては、市場を介さない直接取引や外国等も視野に入れた販路拡大の検討が必



要となってくるものと考えられる。雪国である当市で同じ様な事業を行うことは、難しいと考えられるが、今後ますます高齢者の増加が懸念されることから「老人ができる、老人だからできる」斬新な新規事業等について全市民的な取り組みを真剣に検討する時期が到来しているものと考えられる。

議会運営委員会

平成二十三年十月二十四日～二十五日

「議会報告会」

12052

新潟県上越市

上越市議会では平成二十三年五月より「議会報告会・意見交換会」を実施しており、三月議会と、九月議会の終了後四ヶ所で開催しています。

この議会報告会では、議会で行われた議案等の審議や審査の内容を報告します。

また、意見交換会は市民の意見を議会や市政に反映させるために開催します。

議会や市政に対し手厳しい意見も出されることがある一方で

す。出された意見は上越市議会のホームページや市議会だよりに掲載されます。

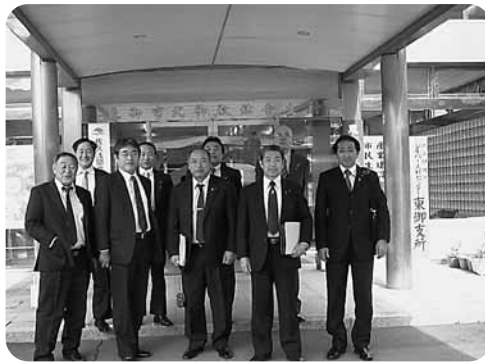


長野県東御市

平成十六年四月に東部町、北御牧村が合併し、人口三万五千人の元気発信都市を基本理念とする市がスタートしました。

東御市議会では、市民から議会、議員の活動を知ってもらい議会への要望、意見を聞くことを目的として議会報告会を開催しています。市民から直接議員が受け止めることにより身近に感じてもらえ、また市政に対する陳情・要望などは、議会報へ掲載し、実行委員会で検証、次回へ反映しています。今後は市民へのPR強化、開催時期、回

数など検討していくとのことです。当市においても議員と市民とがより一層の交流を深め、議会活動を知ってもらうために、議会報告会、意見交換会の実施について検討を行っていくべきと考えます。



議会日誌

10月～12月

〈10月〉

3日 議会報編集委員会

4日 民生産業委員会行政視察に出発（高知県南国市・徳島県上勝町）

12日 議会報編集委員会

” 埼玉県伊奈町議会・山梨県上野原市議会行政視察に来市

14日 議員協議会

” 福岡那珂川町議会行政視察に来市

15日 大分県日田市議会行政視察

” 福島県本宮市議会行政視察に来市

14日 中越地区市議会合同議員研修会（南魚沼市）

18日 総務文教委員会行政視察に出発（宮崎県西都市・日向市）

” 宮崎県日向市市議会行政視察に来市

20日 山梨県富士吉田市議会行政視察に来市

23日 おぢや震災ミュージアム「そなえ館」オープン

” 10・23のつどい

24日 議会運営委員会行政視察に出発（上越市・長野県東御市）

27日 千葉県鎌ヶ谷市議会行政視察に来市

28日 民生産業委員協議会

31日 福島県鏡石町議会行政視察に来市

1日 福島県本宮市議会行政視察に来市

2日 埼玉県深谷市議会行政視察に来市

8日 福岡県水巻町議会行政視察に来市

” 福岡県水巻町議会行政視察に来市

14日 議員協議会

” 福岡那珂川町議会行政視察に来市

15日 大分県日田市議会行政視察

” 福島県本宮市議会行政視察に来市

19日 議会運営委員会

” 本会議（第二日）

20日 本会議（第三日）

” 議会報編集委員会

22日 議会運営委員会

” 本会議（第四日）

1日 岩手県陸前高田市議会行政視察に来市

5日 第四回定例会（本会議）

” 議会報編集委員会

6日 常任委員会連合審査会

7日 総務文教委員会

8日 民生産業委員会

” 民生産業委員会ほか市内企業見学会

16日 宮城県大和町議会行政視察に来市

17日 神奈川県三浦市議会・長野県下諏訪町議会行政視察に来市

18日 中越地区市議会議長会（見附市）

22日 総務文教委員協議会（特別支援学校視察）

28日 議会運営委員会





45



桜井 英樹 (東栄)

小千谷にはまつりがいろいろありますが、私が特に楽しみにしているのは、「おぢや風船一揆」です。

子どもの頃から毎年熱気球に魅せられて写真を撮り続けており、大学の卒業制作で、小千谷をはじめ琵琶湖や佐賀など各地の熱気球を写真に収めました。

あれから二十年経ちますが、改めて小千谷の風船一揆の魅力を感じます。唯一、雪原をバツクに飛び立つ熱気球は、まるでレフ板を当てたかのように色鮮やかさを増します。また、夜のグローバルンフェスティバルは熱気球の灯りが幻想的で花火との共演は見ごたえがあります。近年、グローバルンフェスティバルの会場を見ると、用意

された三脚がびっしりと列をなしており、熱気球を撮るカメラマンが一段と多くなっているのを感じます。他にはない小千谷の熱気球の魅力を、みなさんが分かり始めたのかもしれない。

このすばらしいまつりは、ずっと続いて欲しいですし、これからも写真を撮り続け、ひとりでも多くの方に伝えていけたらと思います。

写真撮影・桜井英樹さん



会議録の閲覧

市議会本会議の会議録(平成15年第1回定例会以降)は市ホームページからご覧いただけます。

(平成23年第4回定例会の会議録掲載は、2月末頃となります。)

URL <http://www.city.ojiya.niigata.jp>

第1回定例会開催予定

2月28日(火)	第1日	議案上程説明
2月29日(水)~3月7日(水)		各常任委員会で審査
3月15日(木)	第2日	一般質問
3月16日(金)	第3日	一般質問(質問者が多い場合に開催)
3月21日(水)	最終日	委員長報告、採決

※日程は変更される場合があります。各委員会の日程、団体での議会傍聴については議会事務局(Tel83-3505)へお問い合わせください。

編集後記

平成二十四年の新しい年が明けました。市民の皆様にとりまして、本年がより良い年となりますよう心よりご祈念申し上げます。

さて、三ページでもお知らせいたしましたのが、安達稔議員が一月三日に急逝されました。心よりお悔み申し上げます。

このことにより「議員に一名の欠員が生じるが、どのようにするのか」という問い合わせをいただいております。繰り上げ当選につきましては、選挙から三箇月以内に欠員が出た場合に限り適用されますので、今回は適用されません。

また、補欠選挙につきましても現在の定数では、三名以上の欠員が生じた場合等に行われることから、当面十五人のままでいくこととなります。

私たち市議会議員は、これまで以上に、より住みやすい小千谷市を目指して頑張る所存でございますので、よろしくお願いたします。

